

平成26年度 部局長マネジメント方針

こうだ しょういち
水道施設部長 甲田 正一



仕事に対する基本姿勢

水道施設部は「命の水」水道を、使用者の皆さまに安心して安定的にお届けできるよう、水道施設の新設・更新と維持管理を行っております。

ただ増え続ける老朽施設とは反対に、使用水量の落ち込みによる給水収益の減少に伴う財政状況は非常に厳しくなっております。

現在、平成23年度から平成27年度までの5ヵ年に於いて「第三次水道施設整備事業」を計画的に推進しておりますが、よく計画とは目標とか希望的要素で使われることが多く、計画が達成できなくても、近い数字になっておれば満足している部分があります。

あくまで計画とは目標ではなく、最低限の結果であるという認識のもとで、限りある財源の中で、各々職員がどうすれば計画値以上の結果が残せるのか、安定的に維持更新ができるのかなどを考え、努力と創意工夫をもって乗り切らなければならないと考えております。

また事業推進において役所では新しいことには慎重で、他市や過去の実績を重要視する部分があります。当然、採用には十分な検討は必要ですが、この厳しい現状打破には積極的な最新技術の導入も必要であると考えております。

上下水道局は公営企業ですが、公営企業として公営部分の信頼性・確実性を残しつつも、企業部分の弾力性を最大限に活かした民間意識の導入により「ライフラインの水道」を守ってまいります。

平成26年度に取り組む重点課題

水道施設の更新や耐震化は、施設の建設から維持管理、廃棄までをトータルに見据えた更新計画(LCC)をたて、少ない財源で最大の効果が得られるよう、事業を進めてまいります。

1 老朽化施設の効率的な更新と経費の節減

- ・新配管材料の採用

耐用年数が40年の配水管 → 耐用年数が100年の配水管に変更
100年間で更新回数が2.5回から1回に減り、大幅な費用の節減が図れます。
また布設時の費用も従来に比べ、約6%安くできます。

・余ったエネルギー利用

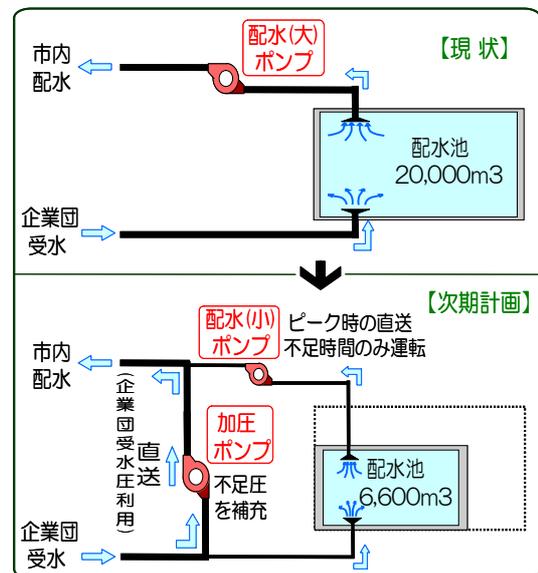
省エネルギー対策として配水場でポンプ配水
→ 企業団受水圧を利用して配水。
局は不足する圧力分のみを加圧配水するだけでよくなり、ポンプ動力費の節減が図れます。
またこれにより、更新時に配水池容量の大幅な縮小化が可能になります。

・水道施設の耐震化とダウンサイジング

水道施設の更新時に、地震等に強い工法や新しい技術の採用及び、今、本当に最低限必要なものを再度抽出し、事業費用の節減や耐震化の向上を図ります。

・管路情報システムの有効活用

管路情報システムの活用により、災害時の復旧支援活用や局内の水道施設関係データ喪失時のバックアップ（危機管理の向上）、お客様の問い合わせに、すぐ対応（市民サービスの向上）、各課にまたがっていた水道施設データを一本化（業務の効率化）など有効活用を行います。



2 安定・安心な水道施設の維持管理の確保

・漏水量の抑制

老朽化した水道管が増えることに伴い、漏水量も増えますが、抑制するために、漏水調査の更なる充実、漏水の可能性の高い古い管の積極的な更新、使用水量検針時による早期発見、耐震性新材料の導入、配水区域のブロック化に伴う水圧の安定化による抑制などを進めてまいります。

・水道水質の安全性の確保

受水槽のある給水設備方式については、水質の安全性を高めるために蛇口までの直接給水（直結直圧給水）ができるよう推進します。また受水槽等使用者の皆さまには施設の安全使用の指導や啓発を行います。

3 災害に強い水道施設の構築と早期復旧

・配水エリアのブロック化

市内の配水区域を小さく分けることにより、災害時など修繕の終わった地域から順次、

給水復元が可能になり、また水圧が安定することから、市民サービスの向上や漏水抑制につながります。

- ・災害時等の相互応援体制の確立

災害時においては、国、府、日本水道協会等と密に連携をとり、また近隣都市等との相互応援協定に基づき、体制確保に努めます。